

ＪＡ肝付吾平町と市長との「”本気”で語ろう会」会議録

団体名	ＪＡ肝付吾平町
日時	令和元年６月２８日（金）１５時３０分から１８時３０分まで
場所	ＪＡ肝付吾平町２階会議室
参加者	ＪＡ肝付吾平町 ７名
	市長、宮地副市長、吾平総合支所長、農林商工部長 ほか

【参加者の意見・要望等】

- ・ ＪＡでは市の支援により様々な事業を実施している。
- ・ ピーマン以外の新規作物の導入などを今後検討していかなければならない。
- ・ ＪＡでは、「２ＪＡ会議（肝付吾平町、鹿児島きもつき）」を設置し、諸課題について意見交換を進めている。
- ・ スマート農業については、ドローンを導入し農薬散布を行うだけでなく、農産物の品質向上の取組に活用できないか考えている。また、作物の肥培管理に関するデータを農家間で共有して技術の底上げを図っていったらどうか。
- ・ ナスは新品種を導入して省力化が図られているが、生産者間で収量に差がある状況である。
- ・ 子牛価格変動に備えて、血統の良い牛の自家保留について、市とＪＡが連携して進めていきたい。
- ・ さつまいもの病気の影響により、ごぼうに品目転換した方もいる。ばれいしょの生産についても試験的に進めている。
- ・ 豆類や葉物野菜の栽培も良いと思う。
- ・ 吾平ではハウスでえごまを栽培する予定の生産者がいる。収量が少ないなどの問題があるが、興味深い作物である。
- ・ 農作業受委託は非常に重要であり、生産者の高齢化等により、需要は多い状況である。
- ・ 農業管理センターに関するビジョンは今後策定していきたい。現在、機械の維持管理費が非常に高い状況である。
- ・ 選果場の建設の声を聞くが、建設費用等を作物の価格に転嫁するわけにはいかないので、なかなか難しい。
- ・ 畑かんについては、農家からは少しでも早い通水を望む声が多い。
- ・ さつまいも基腐病については、昨年の状況から、農家が非常に敏感になっている。
- ・ 農業経営の規模や年齢に関係なく、農業をすること自体を楽しみとしている方が増えてきた。

【中西市長】

- ・当面の課題は畑かん水利を利用した新規作物の導入であり、今後は水利用を中心とした農業経営を目指していただきたい。
- ・農地はあるが農家の高齢化が進んでいる状況にあるなかで、吾平地域は農作業の受委託組織とJAが連携し管理センターを中心に耕作放棄地の発生を防止し、農作物の輪作体系を確立するなどの農地の有効利用を図ることが必要である。
- ・JA鹿児島きもつきが設置を計画している直売所については、地域全体で協力し、中小規模の農家を作る「一点もの」の農産物を提供してもらい、販路の拡大を目指していただきたい。
- ・ナスは新品種を導入し、省力化が図られたと聞いているが、ピーマンとナスの売上や労働時間などを比較するとどうであるか、生産者による部会の有無を含め、しっかりとした指導体制が取れているか検討してほしい。
- ・スマート農業を導入し、施設園芸の個人面積を拡大することは出来ないだろうか。
- ・市ではピーマンに関する環境制御装置を導入する計画があり、吾平地域のピーマン部会に協力を要請している。今後、数年かけてデータを取って、分析を行う必要があるが、それを他の農家と共有し波及させていきたい。
- ・農家の参加のもとで得られたデータにより品質改善を図り、全ての農家が恩恵を受けられるようにしたい。ピーマン部会の取組を先進事例とし、今後は新規就農者を増やすことから、個々の農家の栽培技術の向上を図る取組に移行していくこともすすめていきたい。
- ・子牛価格は高値で推移しており、次の全国共進会に向けて、吾平地域にも頑張っていたいただきたい。
- ・市内の畑は、さつまいもと飼料が多く、農業所得向上を考えると、スイートコーンやブロッコリー、豆類などの機能性作物への転換も一つではないだろうか。
- ・さつまいもの前後作で何か作付けできないか。
- ・温暖な気候を活かして、ハウス加温だけでなく、路地やトンネル栽培で出来る作物はないか。
- ・えごまの栽培について、加工された商品は高い値段である。生産から加工、販売までを一括で取り組む生産者組織など検討する必要がある。
- ・作業受委託組織は非常に重要であり、農業管理センターに関する将来のビジョンを策定していただきたい。
- ・JAと協力し、サラダごぼうの産地化を目指したい。状況によっては選果場の集約を図る必要もあると考える。
- ・農業経営は人それぞれであり、農家への支援策は画一的なものではなく、個別の事情に合わせて変化させていくべきだと考えている。農業も「依存」から「自立」へ変革していく時代であり、農家の経営や営農指導もオリジナルの考え方があっても良いのではないだろうか。